



2021 年 露地・雨よけぶどう病害虫防除暦

ＪＡ中野市営農センター
ＪＡ中野市ぶどう部会

散布日	散布時期	散布薬剤(水 100ℓ当り)	収穫前 使用時期	使用 回数	散布量 (ℓ/10a)	対象病害虫 (発生病害虫)	注 意 事 項
	4 月上旬 粗皮はぎ後 (発芽前)	特別散布 展着剤 20 mℓ ラビキラー乳剤 500 mℓ	発芽前 (休眠期)	2 回	300	ブドウウカミキリ (ブドウカガバ)	・ブドウウカミキリ多発園地は散布する。 ・発芽後の散布は葉害が発生するので散布時期を厳守する ・訪花昆虫保護のため早朝散布を徹底する。
	4 月中下旬 (発芽直前)	① アビオン-E (展着剤) 100 mℓ パスポート顆粒水和剤 400 g	休眠期	1 回	手散布 300	晩腐病 黒とう病	晩腐病対策のため、たっぷりと丁寧に散布する。
	5 月初頭 特別防除 カガラムシ対策	樹幹塗布(水:アルパリン= 1:1) 水【20 mℓあたり】 アルパリン顆粒水溶剤 20 g	幼果期まで ただし収穫 30 日前	塗布 1 回	1 樹あたり 20-40 mℓ	コナカイガラムシ類 クビアカシバ	主幹分岐部下を 30 cm以上粗皮を削り塗布する。 薬液目安: 直径 20 cm以上の樹は 40 mℓ塗布 【クビアカスカシバ多発園 対策】 6 月初頭に塗布を実施する。(塗布による防除は年間 1 回)
	展葉 3・4 枚	特別散布 展着剤 10 mℓ キノンドー顆粒水和剤 100 g	45 日前	4 回	300	べと病 黒とう病	連続した降雨が予想される場合は散布する。 ※散布時は施設や住宅への飛散に注意
	5 月中旬 展葉 6 枚頃	② 展着剤 10 mℓ トランスフォームフロアブル 50 mℓ オーソサイド水和剤 80 125 g	14 日前 30 日前	3 回 3 回	300	晩腐病・べと病 灰色かび病 黒とう病 カガラムシ類	カガラムシ類対策のため、主幹や主枝にもたっぷり散布する。
	5 月下旬 展葉 9 枚頃	③ 展着剤 10 mℓ ドーシャスフロアブル 50 mℓ	60 日前	3 回	300	晩腐病 べと病 黒とう病	【カスミカメ類・カガラムシ類 対策】 コルト顆粒水和剤 3,000 倍(前日、3 回)を加用する。
	5 月下旬 満開予定日 14 日前	種なしぶどう必須散布 ④ 展着剤 10 mℓ ストマイ液剤 20 100 mℓ	満開予定日の 14 日前～ 開花始期	1 回	300	《無種子化》	散布遅れがないように注意する。 有核巨峰には絶対に飛散しないようにする。
	6 月上旬 展葉 11 枚頃	展着剤 10 mℓ フラスター液剤 125-200 mℓ	新梢展開葉 7～11 枚時 (開花始期まで)	2 回	150	《着粒増加》 《新梢伸長抑制》	花振るいする園地は必ず散布する。
	6 月上旬 開花 3 日前	⑤ 展着剤 10 mℓ パレード 15 フロアブル 50 mℓ オーソサイド水和剤 80 125 g スプラサイド水和剤 66 g	7 日前 30 日前 14 日前	2 回 3 回 2 回	400	晩腐病 べと病 灰色かび病 褐斑病 黒とう病 チャノキアザミマ (スリップス類) フタテンヒメコバエ (クビアカシバ)	・主幹害虫対策のため、主幹・主枝にもたっぷり散布する。 ・アザミマ類対策のため、花穂(ぶどうの軸)にしっかりと薬液が達するようにたっぷりと散布する。 ・マンゼブ成分を含む農薬は使用回数に注意(年 2 回まで) (ジマンダイセン・ゾーベックエマル・ペンコゼブ・リドミルなど) 【※① 農薬汚れ・ブルーム溶脱 対策】 ゾーベックエマル☉に代えてペンコゼブフロアブル 1,000 倍(60 日前、2 回)を散布する。ただし雨よけ栽培は農薬登録の関係上ホライズンドライフロアブル 2,500 倍(21 日前、3 回)を散布する。 【※② 農薬汚れ・ブルーム溶脱 対策】 ザンプロDM☉に代えてエトフィンフロアブル 1,000 倍(7 日前、4 回)を散布する。
	前回から 10 日以内 (落花直後)	⑥ コテツフロアブル 50 mℓ スイッチ顆粒水和剤 33 g ジマンダイセン水和剤 100 g	60 日前 30 日前 45 日前	2 回 2 回 2 回	400		
	前回から 10 日以内 (落花 12 日)	⑦ フェニックスフロアブル 25 mℓ ゾーベックエマル顆粒水和剤 133 g アドマイヤー顆粒水和剤 10 g ※①汚れ・溶脱が心配な場合は注意事項参照	14 日前 45 日前 21 日前	2 回 2 回 2 回	400		
	前回から 10 日以内 (落花 20 日)	⑧ ザンプロDMフロアブル 50 mℓ アミスター10 フロアブル 100 mℓ ディアナWDG 10 g ※②汚れ・溶脱が心配な場合は注意事項参照	30 日前 30 日前 前日	2 回 3 回 2 回	400		
	前回から 10 日以内 (落花 30 日)	特別散布(袋かけ未実施園) ライメイフロアブル 25 mℓ オンリーワンフロアブル 50 mℓ アーデントフロアブル 50 mℓ	14 日前 前日 前日	3 回 3 回 4 回	400	晩腐病・べと病 褐斑病・黒とう病 灰色かび病 アザミマ類・ハダニ類	袋かけが間に合わない園地は必ず散布する。
	7 月中旬 (袋掛直後)	⑨ ムッシュボルドーDF 200 g アルパリン顆粒水溶剤 50 g K・Kステッカー(展着剤) 33 mℓ	— 前日 —	— 3 回 —	400	べと病・さび病 チャノキアザミマ ブドウウカミキリ カメシ類 コナカイガラムシ類	【ハダニ類 対策】 コロマイト水和剤 2,000 倍(7 日前、2 回)を加用する。 【クビアカスカシバ 対策】 パダンSG水溶剤 1,500 倍(21 日前、5 回)を加用する。 【代替】 K・Kステッカーに代えてアビオン-E 1,000 倍を使用してもよい。ただしアビオン-Eを使用する場合は最初に調合する。
	7 月下旬 (前回から 10 日以内)	⑩ IC ボルドー66D 2.5 kg テルスター水和剤 100 g	— 14 日前	— 1 回	400	べと病 さび病 晩腐病 チャノキアザミマ	ボルドー散布時は隣接園や施設・住宅に飛散しないように注意。 【代替】 ICボルドー66Dに代えてムッシュボルドーDF 500 倍、 コサイド3000 2,000 倍、4-4 式ボルドーを散布してもよい。 ただしムッシュボルドーやコサイドは高温時や降雨後の散布により葉害発生の恐れがあるため心配な場合はクレフノン 100 倍を加用する。 【べと病 対策】 べと病発生園は IC ボルドーに代えて下記薬剤を使用する。 ・レーバスフロアブル 2,000 倍(7 日前、3 回) ・エトフィンフロアブル 1,000 倍(7 日前、4 回) 【コガネムシ類 対策】 イカズチWDG 1,500 倍(21 日前、5 回)を加用する。(直前混用) ただしカハパールなど早生品種との混植園では散布時期に注意
	8 月上旬 (前回から 10 日以内)	⑪ IC ボルドー66D 2.5 kg	—	—	400		
	8 月中旬 (前回から 10 日以内)	⑫ IC ボルドー66D 2.5 kg	—	—	400		
	8 月下旬 (前回から 10 日以内)	⑬ IC ボルドー66D 2.5 kg	—	—	400		
	収穫終了後	晩腐病・べと病 多発園 展着剤 10 mℓ IC ボルドー66D 2.5 kg	—	—	400	① 病原菌は落葉内で越冬するので、集めて土中に埋める等の処理をする。 ② 根頭がんしゅ病の発生防止のため、ワラ巻きによる防寒を実施する。 ③ 晩腐病の耕種的防除として、二番成り・巻きひげ・果梗痕をきれいに 取り除き、中耕を実施する。あわせて園内を整備し栽培環境を整える。	

安全・安心な農産物生産のために防除・使用規準を厳守しましょう。 * 農薬散布の際は、隣接園・他作物へ飛散しないようにする。

当防除暦の複製・コピーを禁止します